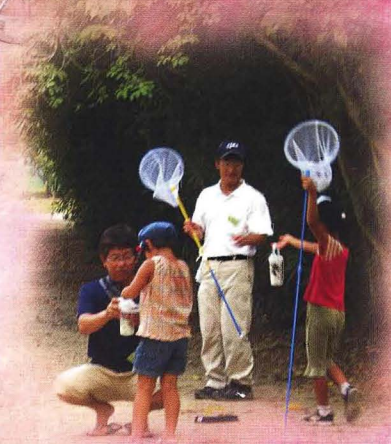


花づな



男女共同参画社会とは「男らしく」「女らしく」という慣習的に作られた性差にとられず、男性、女性ともに社会の様々な活動に参画する機会が等しく与えられ、夢や希望にむかって個性や能力を発揮することができる社会です。

[花づな]は、男女が互いを尊重し、共に支え合う男女共同参画社会の実現をめざして、皆さんと一緒に考えるための冊子です。



◆ **主な内容**

- ◆ 特集：男女共同参画 豊橋市民の意識…………… 2
- ◆ シリーズ この人(地域で輝く人)…………… 6
- ◆ 女性会館事業のご案内…………… 8

男女共同参画 豊橋市民の 意識

豊橋市では、市の男女共同参画推進計画に反映させる目的で本年5月に男女共同参画に関する市民の意識を調査しました。この調査は平成13年から3年ごとに行われており、前回の調査結果は「花づな」第26号で紹介しています。「花づな」第26号では過去の同調査や国の調査結果と比較していますが、今回は男女の意識の違いを中心に紹介していきます。

皆さん自身の意識や家族の皆さんの意識、また地域や職場など身近な社会の状況と比べてみてください。そして、男女共同参画社会の形成が促進されるために、私たち市民の意識と社会が、どのように変わっていけばよいかを一緒に考えてみましょう。

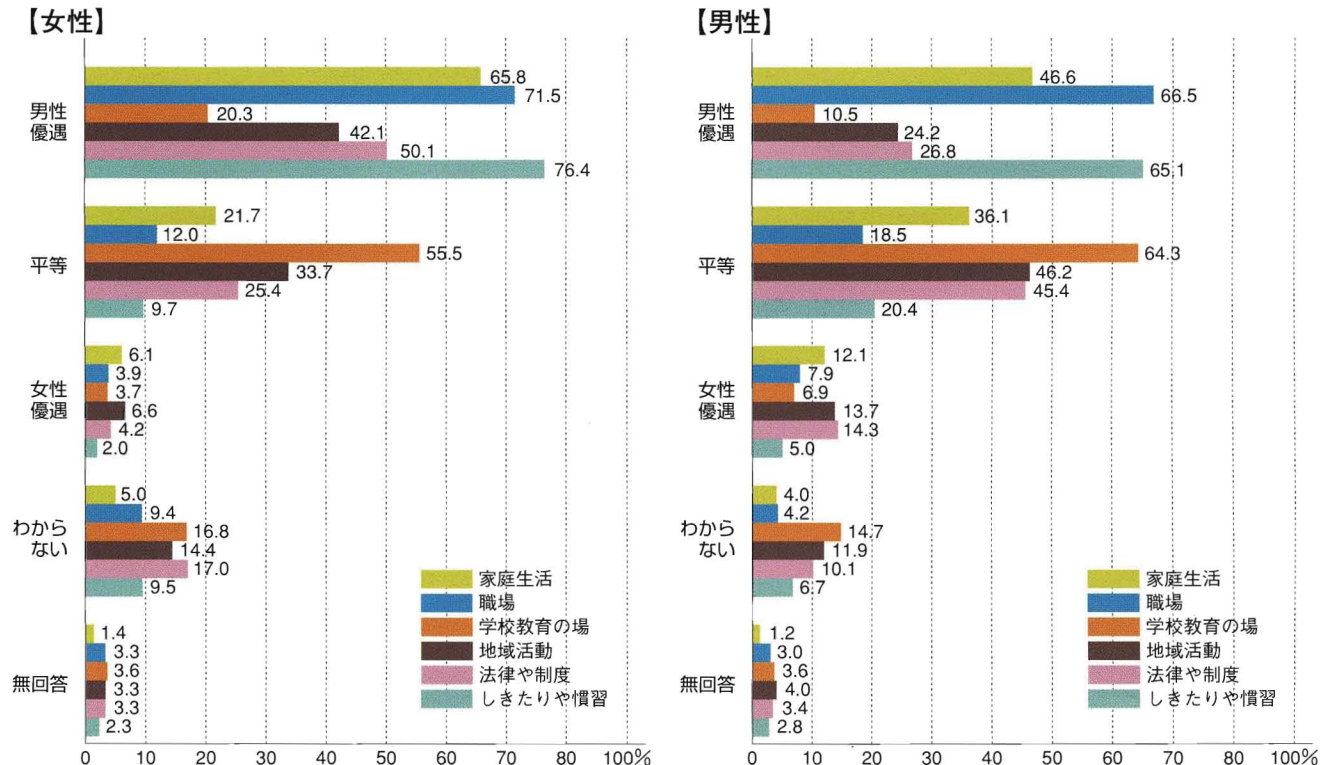


●男性と女性では平等感が違います

社会の各分野で男女のどちらが優遇されていると考えられているかを男女別に表したのが次のグラフです。女性は、どの分野においても男性の方が優遇されていると思う人が多くいます。男

性は職場やしきたりや慣習で男性優遇と感じている人が多くいますが、全体的に平等であると感じている人の割合が高く、男女の意識の違いが見えます。

◆グラフ1:男女の平等感



性別役割分担に関する考え方

「男は仕事、女は家庭」という性別による役割分担に対する考え方について、全体では性別役割分担に肯定的な人は34.6%、否定的な人は36.5%、「どちらともいえない」と答えた人は28.3%です。

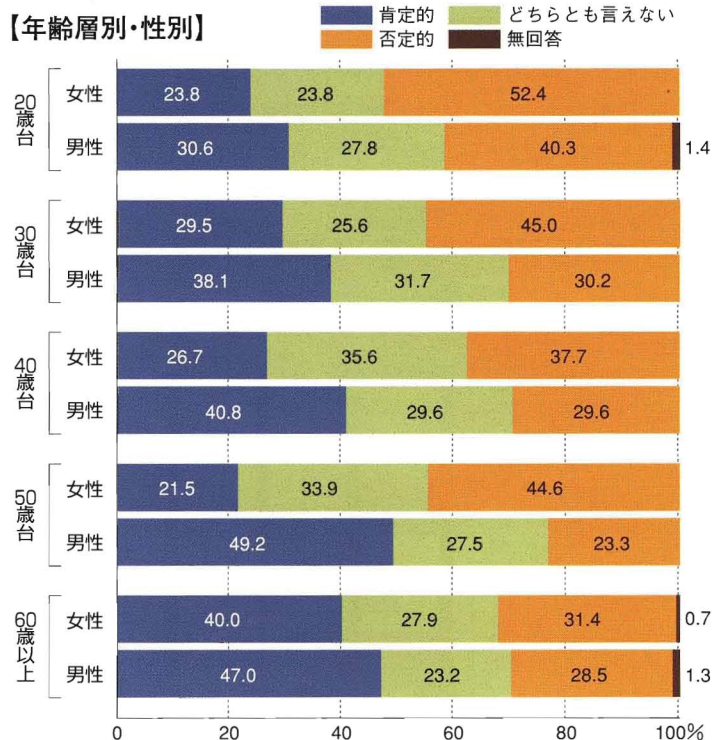
グラフ2は年齢層別と共働きをしている・いないを男女別に表したものです。この表からは、男性は20歳台で否定が肯定を上回っていますが30歳台以降年齢が高くなるに従って性別役割分担意識が高いことが伺えます。また、女性は50歳台までは性別役割分担に否定的な人が多いのですが、60歳以上では男性と同じく肯定する人の割合が高くなっています。

共働き別グラフは、男女が共に働いている家庭とそうでない家庭における男女の意識を表したものです。この表からは男性は共働きをしている、いないに関わらず肯定、否定がほぼ同じなのに対し、女性はそれぞれ10%近い割合で考えの違いがあります。また、共働きをしている人で男女の考え方が大きく違っていることがわかります。

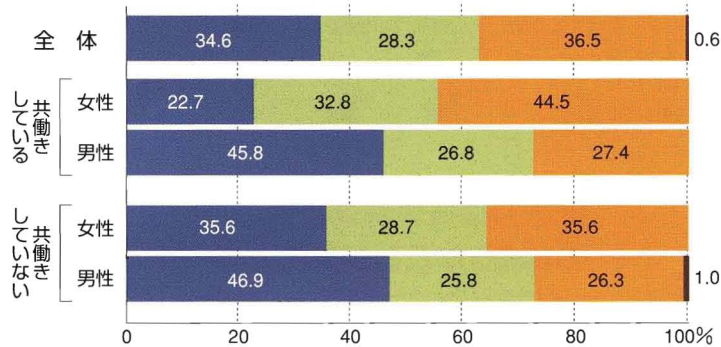
女性と仕事

女性が仕事をすることについては、男女共に「子どもができたならやめて大きくなったら再び仕事をするのがよい」が約半数を占め、「子どもができてもずっと仕事を続けるのがよい」と続き、女性が働くことを支持する人が多いことが読み取れます。

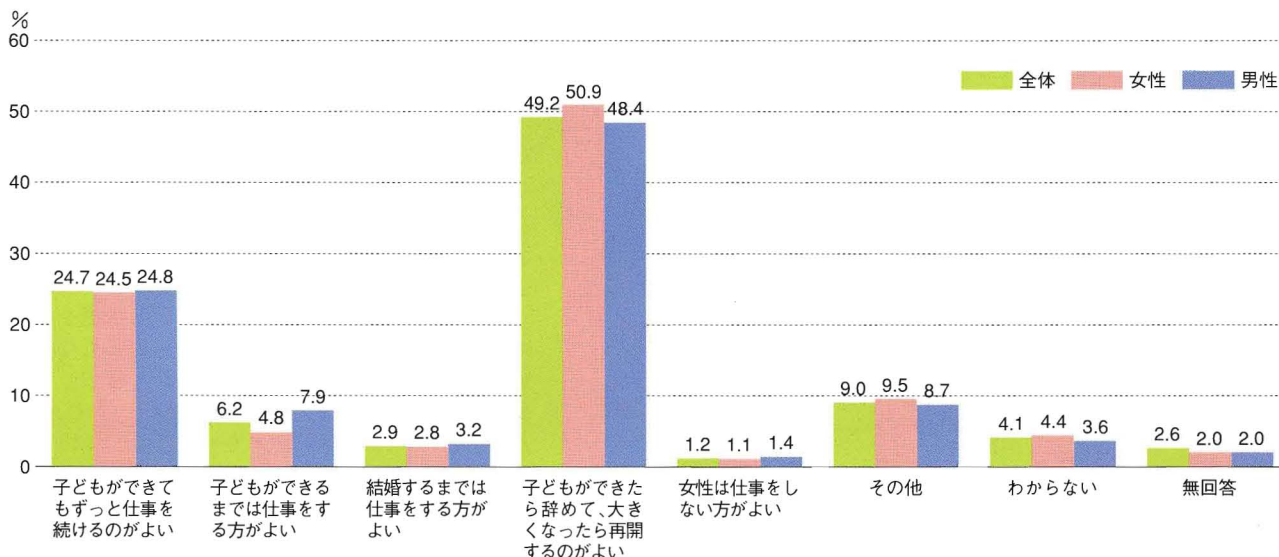
◆グラフ2:「男は仕事、女は家庭」という考え方



【共働き・性別】



◆グラフ3: 女性が仕事をするかどうかについてどう思いますか

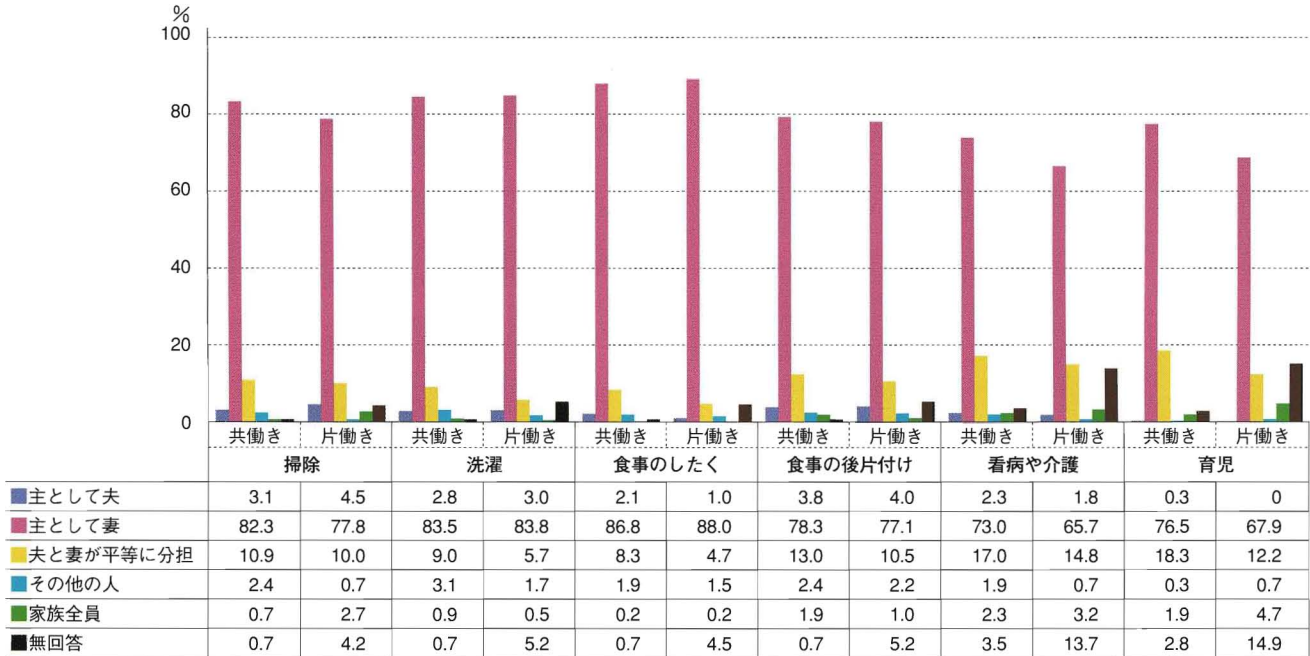


家庭における役割分担

共働きの状況別で見た家庭の役割分担を表したグラフです。主として夫が分担する家事で共働き、片働き共に多いのは「掃除」「食事の後片付け」で、その割合は4%前後です。共働きをしている、

いないに関わらず家事全般を「主として妻」が担う割合が高く、夫の家事協力が進まない状況が伺えます。

◆グラフ4:共働きをしている家庭と、していない家庭の役割分担



皆さんは各グラフから
どのようなことが見え、
どのように感じられたでしょうか。
次の編集委員の感想と併せて、
男女が共にいきいきと暮らすために
家庭や社会はどう変わるべきか
考えてみませんか。

グラフ2より、共働きしていても「男は仕事、女は家庭」という考え方に肯定的なことに驚きました。結果をみると共働きしていてもいなくても男性の感覚は同じことが分かりました。(Ya)

グラフ4より、共働きでも片働きでも、家事、看病介護、育児全般は女性の仕事であることが現実のようです。しかしながら“できる夫”にするにはどうしたらよいか、誰が教育指導するかは難しく思えます。そしてまた、実は男性は術を知っているのに手を出さずにいる気がしてなりません。(Ya)

グラフ1より、それぞれの分野における平等感は男女が似ているので意外でした。学校教育の場では男も女も平等感が高く、職場では男も女も男性優遇が高い。分かっているにもかかわらず変えられないのが現実なのか。(Ya)

我が国は戦前まで家父長制、家族制度で、「家事や育児は家庭の雑事」とされ、「女、子供のすること」でした。東京オリンピック頃から「モーレッツ社員」が出てきて、「家庭とは寝に帰る所、家事や地域社会とのかかわりなんてトンデモナイ」と、自他共に認められてきました。

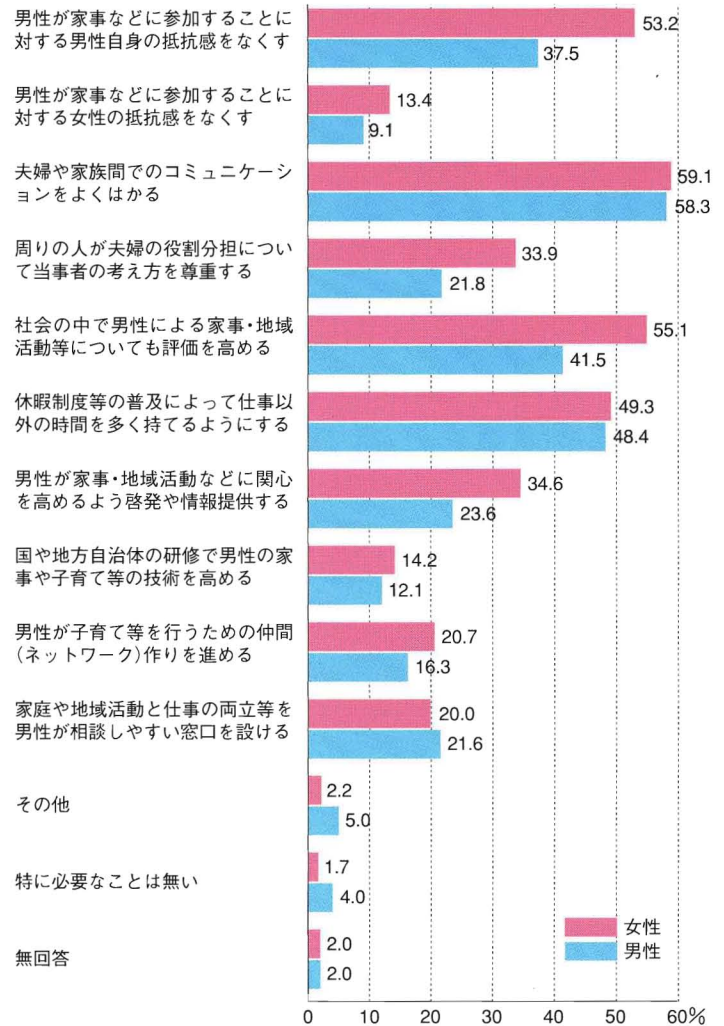
男女共同参画を目指しても、遅々として進まないのはそのような認識が尾を引いているからではないでしょうか。豊橋市民の意識も少しずつですが変化しています。もっと市民が意識を変えて、男女が共に助け合う社会を築きましょうよ。(Te)

男性の家庭生活と役割分担

グラフ5は、男性が家庭生活や地域活動に積極的に参加するために必要と思うことについて聞いたものです。「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」が男女共に最も多く、次いで「休暇制度等の普及によって仕事以外の時間を多く持てるようにする」が続きます。男女別にみると、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくす」「社会の中で男性による家事・地域活動等についても評価を高める」「男性が家事・地域活動などに関心を高めるよう啓発や情報提供する」で女性の支持が高くなっています。一方男性は、女性の支持が2番目に高い「社会の中で男性による家事・地域活動等についても評価を高める」より「休暇制度等の普及によって仕事以外の時間を多く持てるようにする」割合が高く、男性の働き方の課題が見えるようです。



◆グラフ5:男性と家庭生活・地域活動



やはり「女性は家庭」「男は仕事」という考え方が主流なのでしょう。男性と女性、何もかも全て平等にすることが真の男女平等とは思いませんが、女性だけに仕事と家事・育児の両立を求めるのは無理な話です。(To)

女性だけではありません。家事、育児、介護に専念する男性がいてもいいのではないですか。みんなで、もっと気楽に考えましょう。認め合い、理解しあえれば、更に素敵な毎日になるかもしれませんね。(To)

女性は結婚、出産とそのたびに仕事の継続に悩まされます。仕事を継続するために結婚や出産をあきらめるといことは、非常に大きな問題だと思います。(O)

仕事をしている人だけが立派なのではありません。子どもを生んだ女性だけが尊重されるのではありません。仕事に生きる女性、子育てに専念する女性、家事やボランティア・地域活動で輝く女性、周りの人々の協力を得て仕事も持ち、育児もしている女性、介護をしている女性...そんな多様な生き方をしている女性全てが尊重されればいいですね。(To)

家庭の中の小さな「気遣い」が、やがて大きな社会の男女観の意識に反映されるのではないのでしょうか。私たちが今日からできる「男女共同参画」を考えてみたいと思います。(O)

「男女は平等であるべき」という考えは男女とも定着してきていると思いますが、現実には「分かっているけどなかなか実行できてはいない」といえるのではないのでしょうか。(O)

シリーズこの人

地域で輝く 河辺まゆ美さん、市原みち子さん

市民意識調査結果にみる地域活動における男女の平等感は、女性の33.7%、男性の46.2%が平等と答えています。また、女性の42.1%、男性の24.2%が男性が優遇されていると答えています。地域活動は、女性の目から見るとまだまだ男性社会といえそうです。約半数の女性が男性社会と感じている地域活動ですが、今が旬とばかりに地域で活動し輝いている女性を紹介するため、鷹丘校区で活動する河辺まゆ美さん、市原みち子さんのお二人取材しました。

ここに紹介する女性は特別な存在ではなく地域住民として地域と共に暮らしつつ、それぞれの個性と能力を地域活動に活かしている方で、地域住民として見習いたい生き方です。地域の活動は男性がすることだからと決め付けしないで、皆さんもできることから始めてみませんか。



河辺まゆ美さん

娘二人の母親です。地域では、盆踊りや祭りの太鼓指導をしています。その他に、「鷹丘おやじの会」と創造大学の幼児教育情報センター「We CAN」というホームページの作成や管理に関っています。



市原みち子さん

中学生の双子の息子がいます。校区の体育副委員長を務めています。地域の活動は、盆踊りや祭りの企画、運営に参画し、踊りの指導もしています。今年は「鷹丘歩こう会」の発足をお手伝いさせていただきました。

地域のは、 互いの力を活かして、皆で楽しく

地域活動に参加するようになったきっかけを
お話しいただけますか？

河辺:元々、地元民で青年団や老人会の方々に楽しませてもらった子ども時代があったのですが、子どもができて地域に参加し始めた時に非常に希薄さを感じました。それで、自分が動くことによってお父さん方の居場所を作ったり、新しく地域に来た方たちと仲間になつたりしたいと思ったからです。また、自分が積極的に動く事で周りからも認めていただき、自治会長さん、学校のバックアップもいただけるようになりました。

市原:きっかけはやはり何と言っても、河辺さんの存在です。何かやりたい時には必ず相談にのってくれますし、河辺さんが上の世代の方々と私達の世代とのパイプ役になって下さいます。

活動を通して、ご自身の役に立ったことは
ありますか？

河辺:自治会というと、まだまだ男性社会・男性組織というイメージがあると思いますが この地域ではそういった圧力は一切感じません。自治会長さんはじめその他の役の方々の協力して下さる力が強く、「認められたのだ」という自信につながります。

市原:まだまだ一生懸命走っている途中です。子育てが一段落して、何か自分にもできる事はないか、身近な所で身近な人と、お互いの力を活かして一緒に楽しんで生きたいです。私の周りには宝石のように輝ける力を持った人が沢山いらっしゃるの、共にみがき合い、輝きを何倍にもしていきたいです。

活動を通して地域がどう見えますか？
また、何か変化がありますか？

河辺:町内役員を経験して、自分の町内だけでなく校区全体を見られるようになりました。校区内の5町がつながりを持てるようになったと思います。

市原:今年から、盆踊り・祭りパレードの練習を、毎

月小学校の体育館をお借りして行うようになってから、校区内の各町が集まって一緒に練習できるようになり、輪が広がって良い事だと思っています。

このように活動を進めていっしょるのは何のためですか？子ども達への将来像などがありますか？

河辺:きっかけは子どもが生まれた事からです。子ども達を地域の中で見守ってもらおうと思ったら親も努力が必要だと思います。地域で子ども達を育てていくには、親世代だけでなく私達の先輩世代の力が是非とも必要です。そんなつながりを広げたい。そして、究極は年を取ったらグループホームを作れるような仲間作り、家庭以外の居場所作りができたらいいなと思っています。

市原:未来へつなげていきたいです。今やっている事が未来から見た時、子ども達にとって大切な思い出になって欲しい。そんな願いからです。子ども達に親をはじめとする大人達のはつらつと楽しそうにキラキラ輝いている姿を見せたいです。

ご家族や友人の反応はいかがですか？

河辺:以前は子どもも一緒に楽しんでくれていましたが、最近は年頃になってきて、「もう少しおとなしくして」と言われます。夫はできる限りの協力をしてくれ、今年も5月から毎土日は子ども会フットベースの指導をしてくれました。友達からは、「いつも動いてないとダメなのね」と言われています。



インタビューを
終えて

大変熱く語って下さり、インタビューする側にも熱い思いが伝わってきました。お二人とも楽しそうに輝きを持った女性でした。また、お二人がお住まいの地域も周りの皆さんも、積極的に協力し合えるからこそ、出来上がるものがあるのだと思います。印象的だったのは「男も女も関係ない、みんなで楽しく、そしてそれぞれができる事をやっていく」とおっしゃっていた事です。インタビュー後は、パワーをいただいたような、温かな、そんな気持ちになりました。お忙しい中、ありがとうございました。

取材・編集／戸崎、石川、山本



市原:近所の友達もみんな巻き込んでいますね。でも、できない事は無理強いしません。家庭では、夫が家事や育児にとっても協力的です。だから、外にエネルギーを向けられる余裕があるのかもしれない。

活動を通じて、ご自分に意識の変化はありましたか？

河辺:小さい頃から“世話焼き”と言われて、その性分です。親の影響もあるかもしれませんがね。子どもを持つ女性として、出来る事をやっているだけです。

市原:自分の親も学童保育を作ったり、盆踊りを始めたり・・・と、楽しんでいる姿を見てきたので、「自分が楽しく」を基本に自然に取り組んでいます。

仲間を増やすためのメッセージをお願いします。

河辺・市原:自分達が楽しんでいると、人もパワーもお金も集まってきます。男性・女性、大人・子ども、日本人・外国人、持ち家・借家・・・等は関係ありません。境目を作らずどんどん来て！という、オープンな気持ちです。自然に人が増えていけばいいですね。私たちが楽しそうにしているのを見て、興味を持ってそれがきっかけで出てきてくださるのを期待しています。まずは地域活動に参加してみましょうよ。参加してくれる人をさがすアンテナを張っています！

行事のご案内

第22回豊橋男女共生フェスティバル

◎平成21年1月18日(日)午前10時～午後3時30分

◎ライフポートとよはし

【主な催し】

オープニング 10:00～10:30(コンサートホール)

講演会 10:30～12:00(コンサートホール)
演題「人が人として生きる、認めあう心」
講師：田嶋陽子さん

分科会 1 13:30～15:30(女性会館)
「ファミリーで考えるワークライフバランス」

分科会 2 13:30～15:30(女性会館)
「女性と法律」

分科会 3 13:30～15:30(女性会館)
「こどもを守る～心と体の健康プログラム」

この他に女性団体の活動発表、バザー、ふれあい食堂など家族で楽しめる催しが一杯です。ぜひお出かけください。



女性相談事業のご案内

ちょっとした不安や疑問から
切実な悩みごとまで、
どんなことでも結構です。
一人で抱え込まないで、
諦めないで、まずはお気軽に
女性会館相談室までお電話ください。



女性のための電話悩みごと相談

- ◎毎週月～土曜日(祝日・休館日は除く)
- ◎午前9時～午後3時
- ◎相談電話番号 ☎0532-33-3098

専門相談(女性の専門家による面接相談)

- ◎心の相談(年24回)
- ◎法律相談(年6回)
- ◎専門相談は予約制です。
- 予約電話 ☎0532-33-2822

女性のための悩みごと面接相談(電話相談も可)

- ◎毎月第3水曜日
- ◎午前10時～午後4時

専門相談の日程は広報とよはし及び女性会館ホームページでお知らせしています。

<http://www.city.toyohashi.aichi.jp/josei/>



編集後記

「男女共同参画」という言葉さえ知らなかった私が「花つな」の編集委員として参加することになり、社会との関わりについて、新しい発見や気づきを知る大きな機会となりました。周りの方からの「男女共同参画」についての意見を聞くにつれ「この言葉は特別なものではなく、もっと身近なところにあるのだ」と改めて実感し、もう一度見つめ直してみたいと思います。(大槻)初めての編集委員は新しい方との出会い、そして発見の連続です。色々な刺激を受け新しい風を感じております。勉強させて頂けて有難いです。(山本)

【編集委員】石川 守・寺島悦子・戸崎史子・大槻晴代・山本明希子

とよはし男女共生だより第31号

発行年月/平成20年10月

発行/豊橋市(豊橋市女性会館)

〒441-8075 豊橋市神野ふ頭町3-22

電話.0532-33-2822・FAX.0532-33-2810

